

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000788), 法人名 (株式会社 アイケア小樽), 事業所名 (グループホームアイケアおたる), 所在地 (〒047-0017 小樽市若松2丁目1番18号), 自己評価作成日 (平成25年4月30日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

週2回の訪問看護において、看護師との密な連携を摂り、入居者様の体調管理、特変時の対応がスムーズに行われており、安心・安全な生活環境の元で過ごして頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2011\_022\_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000788-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年3月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店・病院・コンビニ・銀行・飲食店等が建ち並ぶ国道5号線から少し北に位置しており、繁華街に近いのに静かな環境にあり、南小樽駅やバス停にも近く利便性の良い事業所である。運営母体法人は、多くの介護サービス事業を展開しており、そこで培ったノウハウはサービスの質の向上に活かされており、事業所内は、介護者と利用者の動線を考慮して機能的に造られている。リビングからは、廊下を挟んだ各居室を視界範囲内で見守ることができ、各居室には自分らしく尊厳を持って暮らせるように、馴染みの家具や写真等が飾られ、これまでの生活歴や暮らし方を尊重している。管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で、事業所理念『目くばり・気くばり・心くばり』を基本とし、利用者と共に過ごす日々を大切にしており、季節を感じる外出行事や、日常的な散歩や買い物は個々の希望にそって支援している。手芸・体操・歩行運動等のレクリエーションを日課とし、事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫している、恵まれた住環境の中で利用者をやさしく支え、地域に根ざした家庭的で暖かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの最後に職員で復唱し理念の共有をしています。	事業所独自の理念『目くばり・気くばり・心くばり』は、リビングや事務室に掲示しており、申し送り時には全職員で唱和しケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	年に1回町内会総会に参加しています。また2ヶ月に1回資源回収・祭典に参加しています。	町内会行事の資源回収や若松町会祭典に参加している。英会話やフラダンス等のボランティア訪問も多く、利用者の楽しみ事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で町内会、地域の方々からの意見を聴かせて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様からの意見を聴き、それに沿ったサービス提供が出来るように職員と話し合う時間を設けています。	運営推進会議には利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員等が出席し、地域との交流や防災計画等が話し合われ、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は規定された年6回開催と、会議終了後の議事録の送付を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課等に分からない時には電話などにて相談させていただいています。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、地域包括支援センター職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を開き拘束のないご支援を心がけています。	日中玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。身体拘束については、運営規定に明記し全職員が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行い、職員全員の「虐待0」をもとにご支援させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、勉強までにはいたっていない為、これから職員共々、勉強の機会を設けます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安がないように、分からない部分は尋ね、説明を十分に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱をホーム玄関に設置し、来設時に意見や質問を聞くことが出来るように心掛けています。	意見が出やすいように苦情箱を設置しており、利用者家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時の会話の中から意見要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上司がホーム来設時、又、お会いした時等に意見や提案を聞き、改善が出来るように努めています。	代表者や管理者は、全体会議で職員の意見等を聞く機会を設けている。全体会議終了後は内部研修会を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話し合い、向上心を持って働ける環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員研修を行っています。また、今年度2月より職員主体の研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会新年会の参加をしています。他グループホームの方々と顔見知りになる機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	面談時に色々とお話を伺い不安の無い生活を送って頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月、介護日誌を郵送し、何かある時は電話・来設時には必ず数分でもお話をするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が必要とする支援を提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とは共に暮らしを共有する者同志と考えサービスの提供をさせていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には必ず、ご家族様とは時間を作り、ご本人様の様子等を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のお話をよくされています。友達のお話をされる時はとても嬉しそうで、時間をしっかり取りお話を伺っています。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援している。昔馴染みの節分・桃の節句・七夕・お彼岸等の行事を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係でいられるよう、状況などをしっかり把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様とは分からない事や相談などで電話対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のやりたい事や希望は把握するように努め、サービスを提供できるようにしています。	センター方式を活用し、家族から得た情報や過去の生活歴を基に、個々の思いや暮らし方の希望や意向を汲み取り職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様より情報提供を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で入居者様の状況を把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様と必要な関係者ときちんと話し合い、情報提供をもらい、その方に合った支援の計画を作成しています。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について家族・職員・医師等と話し合い、より良く暮らせるための介護計画を作成しケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌を毎月、ご家族様へ郵送しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能を低下させないために、毎日の体操や嚙下体操を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練に町内会も参加を呼びかけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者様、ご家族様の希望医受診支援を行っています。	協力病院医師の訪問診療や、訪問看護師による健康管理があり、個々の病状に合わせた医療機関を、受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の医師や病院に24時間連絡が取れる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、医師と連絡を取り合い、退院後も安心した生活が送れるように情報の共有に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時又入居者様の年齢、ADLを加味しながらご家族様と話し合いの場を設けています。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明している。医師や看護師の助言を受けながら、家族と対話を重ねチームとして取り組むことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応について職員全員が対応できるように周知徹底しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回施行しています。	年2回消防署の協力の下、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っている。災害時備蓄品については、本社と協議し検討する事にしている。	年2回火災を想定した訓練を行っているが、火災以外の自然災害にも対応出来るように、地震や台風等の訓練を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、人を傷つけない言葉掛けをするように努めています。	日頃から利用者と同じ目線で話すようにし、個々の尊厳に配慮して、敬語を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定が出来るようにお話し、会話にしっかりと心身に耳を傾けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活の流れに合わせたサービスが出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容また、ご家族様への外出への機会を作っていただくようにお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会では入居者様の希望食を提供させていただいています。	利用者の希望を重視した食事を提供し、栄養指導を受けている。食事時間も会話が弾むように、職員も一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーは摂取されています。水分量は少なくとも1000m以上摂取されるように声掛けしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア、洗い残しについては支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内にて排尿、排便ができるよう時間を決め誘導をしています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。トイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に注意し水分も十分に摂取していただくようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や状況に沿った入浴を行っています。	本人の希望する曜日や時間に入浴できるように支援している。拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけ等の方法を工夫している。必要に応じ、足浴や清拭に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活をそのまま送れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には十分に気を付けています。薬はきちんと飲まれるまで、最後まで見守り確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアにて個々に出来る事をお願いしています。TVをみたり入居者様同士がお話されたりと楽しまれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節は限られていますが、ドライブ、外食に出かけています。ご家族様にも協力を呼びかけています。	暖かい時期には、個々の希望に応じて買い物や散歩、ドライブ等で戸外に出掛けている。利用者と相談しながら花見外出や外食の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が必要とされるものに対し使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のお願いがある場合は自由におかけしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活を送られるよう毎日の掃除又居室入口にご本人様の好まれるぬいぐるみなどを吊るしています。	共用空間であるリビングの壁には、利用者の作品や写真入りの機関紙が飾られている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごされています。常にフロアーには入居者様がおられお話を楽しまれています。また、一人になりたい時間は居室に戻られ過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使われていた物を持参されています。自宅で生活をされていた状況に近い生活を送っていただけるように努めています。	居室には、各家庭から馴染みの家具を持参し、家族写真や思い出の品が飾られ清掃もいき届き、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様個々に出来る、袋、新聞たたみ、おしぼり、洗濯たたみ等をお手伝いして頂いています。		